

令和6年度大分県交通安全推進協議会委員会開催結果報告

1 開催日時・場所

日時 令和6年6月14日(金) 午前10時30分から同日午前11時30分まで

場所 大分県庁新館14階 大会議室

2 出席者

別添出席者一覧のとおり(副会長(委員)5名、顧問1名、委員40名)

委員80名の内45名の出席となり、要綱7条第5項の規定により本委員会を開催

3 議決結果

第1号議案・・・全会一致で承認

令和5年度の事業報告と収支決算について(資料1~8ページ)

第2号議案・・・全会一致で承認

令和6年度の事業計画と収支予算について(資料9~15ページ)

4 意見・要望

発言者 大分県自転車二輪車商協同組合理事長 小野政弘 委員

発言要旨 (1)自転車利用時のヘルメット着用について

(2)幼少期からの自転車安全利用教育について

発言詳細

(1) 自転車利用時のヘルメット着用について

昨年、ヘルメットの供給が間に合わない状況があった。今年は、供給できているが、ヘルメットの着用率が下がっている印象がある。理由を聞くと、「購入したが、皆が被っていないから」「自転車から離れる際にヘルメットの保管に困る」といったものだった。ヘルメットの保管については、後付けのヘルメットホルダーが売られているため活用してもらいたい。

また、昨年の全国ヘルメット着用率は、全国2位ではあったが、着用率としては50%以下であるので、着用率の数字を見ると、今後も課題が残る。そのほか、「県職員・市職員が被っていないのでそこから始めたらどうか」という声もある。

ヘルメットを被っていない人と話をする際に、身近な交通事故事例を出すことで、ヘルメットの着用を促すことができ、着用率が上がると考えられる。

(2) 幼少期からの自転車安全利用教育について

大分県交通安全協会が、小学生に対し「自転車教室」と「こども自転車大会」を実施しており、本組合では安全協会の「自転車教室」に併せて、自転車の点検整備、特に、ブレーキの点検を行っている。

自転車の交通違反について青切符が適用される事態になったが、幼少期から交通ルール

を学び、守られるようになれば、青切符の適用までにはならないのではないか。

長野県が横断歩道での車の一時停止率が全国トップであるが、これは、子どもの頃の教育が大人になってからもよい行動につながっていて、幼少期からの交通安全教育が大事だと考える。

令和5年度、交通安全教室を開催した小学校29校の内、18校が実技、11校はDVDの視聴だけの座学教室であった。学校の都合もあると思うが、実技教室が重要であり実技教室を増やしてほしい。

また、「こども自転車大会」への参加校が数少ないが、この大会への多くの学校が参加するように何か改善できることはないか。

回答者 大分県副知事 尾野賢治 副会長

発言要旨

- ・ヘルメットの着用に関しては、協議会でも着用を推進する。
- ・県職員のヘルメット着用に関しては耳が痛い話であるので、しっかり警鐘を促したい。
- ・自転車教室は、こどもの時に交通マナー・ルールを学ばせることはとても大事であるので、教室や大会があることについては、市教委・県教委を通じて周知したい。



副知事挨拶